

20230403号	2023ITES 深セン国際工業製造技術及び設備 展覧会	所 長	南浦秀史
20230410号	都市化が生む農村観光	副 所 長	小森亮人
20230417号	負の遺産を未来の希望に繋げる公園	所長助理	徐潔
20230424号	上海モーターショー	所 長	南浦秀史

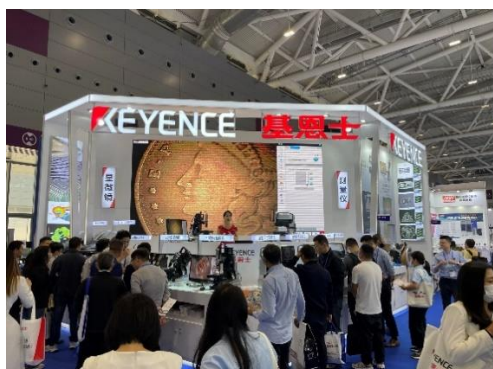
2023ITES 深セン国際工業製造技術及び設備展覧会

3月29日から4月1日まで、広東省深セン市で2023ITES国際工業製造技術展覧会が開催されました。ファクトリーネットワークチャイナが日本精密加工区として集団出展し、上海事務所も共催に入ること大阪企業が2社出展されました。

ITES 深センは、中国で開催されている最大規模の工業展示会です。主催者発表によると展示面積は14万㎡、出展企業は1295社、4日間の延べ入場者数は123,906人だそうです。集団出展以外のところでは、キーエンスや三菱電機、牧野フライス製作所、ヤマザキマザック、ミットヨなどの日本企業が大きなブースを構えて出展しており、とても多くの人で賑わっていました。

深セン市は、香港に隣接している中国の玄関口であり、1980年に中国初の経済特区として指定されて以来、発展を続け、現在の常住人口は1300万人以上です。日本でも名前を聞いたことのあるドローンのDJI、WeChatを始めとするソフト開発のテンセント、通信機器のファーウェイ、電気自動車のBYDなど、中国のみならず世界的に有名な企業の発祥地であり、現在も本社を置いています。

深セン市の中心部には、規模は比喩のものになりませんが、昔の日本橋を彷彿とさせる大きな電子商業街があります。携帯電話やパソコンなどの修理や部品、中古ショップなどがところ狭しと並んでおり、すごく多くの人で活気がありました。競争力ある企業の源泉は、意外とこんなところに蓄えられているのかもしれない。



都市化が生む農村観光

都市で生活を送る人々が農村での滞在を楽しむアグリツーリズムは日本でも知られるようになりましたが、同様の観光スタイルが中国でも注目を集めつつあります。

先日訪問した江蘇省の淮安(わいあん)市では、食品産業の振興や外国企業の投資誘致に加え、産業多角化の一環として農村地域の観光振興に力を入れています。急速に開発が進む市の中心部や工場地区を離れると農村の景色が広がる同市ですが、市の西部にある洪澤湖周辺ではかつて農家の居宅であった家屋を改装し、古民家風のホテルに転用することで新たな観光資源としています。建物は元々の構造を活かしながら空調や水回りは宿泊客が快適に過ごせるものに新調するとともに、モダンな雑貨や観葉植物を配置し、くつろいだ雰囲気の中でゆっくりと滞在を楽しむことができますようになっています。ホテルのスタッフも地域の住民が務め、都会的なホテルとはまた違った素朴なサービスを受けられるのも魅力の一つとなっているようです。

このような施設に泊まり農村の雰囲気を楽しむ観光スタイルは中国語で「農家楽」と言い、淮安以外にも近年中国各地で同様の施設が作られています。主な利用客は都市に住む家族連れや若者のグループで、忙しい都会の生活を離れ、快適かつのんびりと過ごせる滞在先として人気を集めているようです。

上海をはじめとする都市の生活は変化が多く刺激的ですが、それだけでは疲れてしまうという感覚は日中共通なのかもしれません。これからの中国の農村観光がどのように発展していくか、興味深いところです。

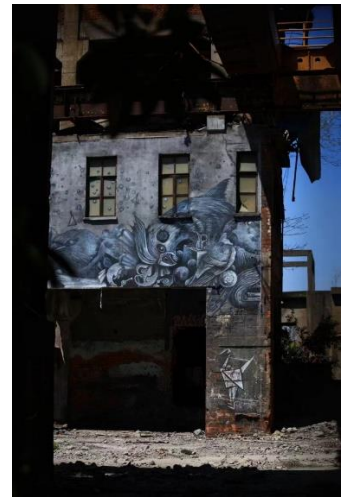


負の遺産を未来の希望に繋げる公園

先日、私は静かな人気を博し始めた「後工業生態景観公園(鋼彫公園)」を訪れました。この公園は、上海市宝山区長江西路の「上海国際節能環境保護園」の中にあり、総面積は 53000 平方メートルもの規模があります。この広大な公園はどこにでもある公園とは異なり、敷地内に放棄された工場や除塵塔、倉庫、積み場などの歴史的な工業遺跡を活用し、旧工業基地に公園を建設するという新しいモデルを探求しています。

この公園は、以前は上海鉄合金工場として知られていた場所です。上海市宝山区は多くの重工業企業が集まる地理的に特異な場所でした。有名な「宝钢」(宝山鋼鉄)もここにありました。これらの工場は紛れもなく中国の経済と文化発展に貢献しましたが、その一方で環境汚染の大きな一因となった負の側面もあります。政府はそうした歴史的な背景に鑑み、負の歴史に蓋をするのではなく、次世代に繋げるという観点を持ち、周辺環境に汚染をもたらすことなく公園に改造する取り組みを進めました。

最近、企業の転換や社会の発展に伴い、廃工場を市民のレジャー施設に改造する場所が増えています。上海市内では、多くの工場跡地が「公園」や「博物館」「美術館」に生まれ変わりました。このような施設は、市民に休息、娯楽、運動、交流の場を提供するだけでなく、多くの人々にその場所の現在と過去を知ってもらうことができます。「後工業生態景観公園(鋼彫公園)」もその一つで、訪れる人々に興味深い経験を提供してくれることと思います。



上海モーターショー

主催者の一機関である上海市国際貿易促進委員会が在上海の自治体事務所を招待した見学ツアーに参加しました。日本でも新聞などで話題になっている展示]会です。場所は輸入博も開催される国家会展中心。3万平米以上の展示面積を誇る巨大な展示会場です。

世界的に有名な欧米や日本のメーカーに混じて中国メーカーもしっかりと存在感を示していました。個人的な印象ですが、日本メーカーは総じて地味で、堅実、質素、そういった言葉が似合う展示だった一方で、中国メーカーは派手でフルラインアップ。スポーツカーやいま流行りのキャンピングカー、水素・燃料電池を動力源とする無人運転車、日本の漫画「AKIRA」を彷彿とさせるような2輪車等、コンセプトカーも目白押しで未来を見据えてしっかりとアピールしている印象でした。

部品館ではやはりEVに関するものが人気で、実物大のスケルトン模型を使ってどこにどんな部品が使われているかを展示していた日系メーカーの展示では絶えず人だかりができており、参観者は熱心に写真を撮っていました。また、国別でドイツだけが唯一政府の支援のもとでナショナルパビリオンを構えており、聞いたことのないような企業の製品を集団出展することでアピールしていました。

上海市は2025年までに個人向け新車のEV比率を50%以上にする、公共車両にいたっては全面電動化にすることを目標にして取り組んでいます。タクシーでEV自動車にあたることも珍しくなく、中国での自動車EV化は加速度的に進んでいきそうです。

